

令和8年第1回 区づくり推進横浜市会議員会議（青葉区） 議事録	
開催日時	令和8年2月19日（木） 午後3時30分～午後5時00分
場 所	青葉区役所4階会議室及びWeb会議
出席者	<p>【座長】 横山正人議員</p> <p>【議員：6名】 伊藤くみこ議員、おさかべさやか議員、行田朝仁議員、田中ゆき議員、藤崎浩太郎議員、山下正人議員</p> <p>【説明局員：24名】（青葉区：26名）</p> <p>中島区長、真船副区長、青木福祉保健センター長、今井福祉保健センター担当部長、網河土木事務所長、宇多消防署長、ほか関係職員</p>
次 第	<p>議事</p> <p>令和8年度 個性ある区づくり推進費 青葉区編成予算（案）</p>
発言の要旨	<p>資料を真船副区長が説明</p> <p>藤崎議員 13ページの市が尾駅周辺サイン整備事業についてですが、「サインの改善に向けて増設を行います」とあります。これは単純に「増設が主」であるのか、「サインそのものの改善」を行うのかどちらでしょうか。また、バリアフリー構想に関して、誰を対象にどのようなサインの改正を行うのか伺います。</p> <p>井波区政推進課担当課長 今回のサイン整備ですが、これは「新規事業」というより、過去に実施してきたサイン整備事業が途中で止まっていて、残っている部分を最終的に整備していくという位置づけになります。つまり、以前から計画されていたサイン整備の最終区画を完了させるための事業であり、基本的には「過去の整備の続き」という整理になります。</p> <p>藤崎議員 現在は、認知症の方に配慮したサインの設計が福岡などで刷新されている事例もあり、工夫できる点は多くあります。せっかく現時点で整備するのであれば、最新の知見を取り入れたサイン整備としていただきたいと考えますが、その点についてはいかがでしょうか。</p> <p>井波区政推進課担当課長 もともとの整備とのバランスを考慮しつつ、新しい知見も確認しながら取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>藤崎議員 必ずしも、もともとの整備と統一される必要はないと思います。見やすいものを作った方がよいと思います。</p> <p>次は、15ページの青葉区の子育てに関する魅力発信についてと、24、25ページの子育て支援策の充実についてです。父親支援のことは、24ページでは赤ちゃん教室を「父親も参加しやすい工夫を取り入れる」と書かれております。25ページのプレパパのところは「父親支援」という言葉が入りましたし、(7)の情報発信事業も「特に父親に」という記載があります。「男性の育児支援が充実している」という情報発信は、今</p>

	<p>後重要であり、市内外にうまく発信できればと考えています。そこで、具体的に父親に対してどのようにアプローチしようとしているのか。</p> <p>岩田区政推進課長 15ページの3(1)の魅力発信プロモーションは、子育て世帯を中心とし、青葉区を選んで住んでいただきたいということがメインの目的であると考えています。タイミング的に、どういう発信をするのが一番効果的かというのも、検討中です。タイムリーに対象の方々に刺さるようにと考えています。その中で、今いただいた「父親」というキーワードについても、考えていきたいと思います。</p> <p>藤本こども家庭支援課長 具体的な取組についてご説明します。赤ちゃん教室では、父親の参加が増えていきますので、集ったお父様方のグループを作ったり、一部の会場では男性保育士の派遣を実施しています。父親の遊び方や子どもの抱き方などについて具体的にアドバイスを行い、育児の担い手として育成していきたいと考えています。プレパパ教室についても、父親参加のグループを作り、「産後すぐろく」というものを実施しています。ゲーム性の高い教材を用い、子どもが生まれた後にどのようなことが起こるのかをディスカッションし、それに対してどのような支援があるのかを考える取組を進めていこうと考えています。</p> <p>また、窓口の母子手帳交付時には、来庁した父親に心の準備に関するアンケートを取る予定です。さらに、お父様になって、保育園を探しに来たといった方に対しては、相談場所であるこども家庭相談の父親向けのチラシを新たに作成しましたので、そちらを配布していこうと考えています。今持っているチャンネルを活用して、父親支援を進めていこうと考えています。</p> <p>藤崎議員 父親との関係についてですが、この間、一歳半ぐらいのお子さんを持つお父さんと話をしていた時に、「どういう遊び方をしてよいか分からない」と言われました。パパもママも変わらないのかもしれないですが、意外とそのような悩みがあります。また、赤ちゃん教室などではパパの参加が増えてきてはいるものの、継続的ではなかったり、少数であったりします。父親の方と話をすると、「どうせママが中心なので自分は一歩引いて、あとはママでやってくれ」というようになりがちです。男性同士を集めてもらうことは有効だと思います。産後すぐろくや産後クエストなどいろいろありますが、そのような男性目線での子育て支援をまず第一歩として進めていただいて、ありがたいと思います。そのような取組があることを、やはり知ってもらわなければ活用につながりませんので、よく伝えていただきたいです。パマトコなどでも、どのレイヤーの情報を入れるかが非常に悩ましいと思います。拠点やつどいの広場などの情報は掲載されていますが、ケアプラザで実施しているイベントだと、なかなか検索等で引っかかりづらいことがあります。パパとママか</p>
--	---

	<p>どうかに関わらず、子育てのどのレイヤーの情報を入れるかは非常に悩ましいですが、件数が多いほど、いろいろな人にアプローチしやすく、タイミングも合いやすいと思います。パマトコは青葉区の所管ではないので簡単ではないと思いますが、その点を要望します。</p>
田中議員	<p>魅力発信プロモーションの15ページのところですが、子育て世帯を中心とした居住促進を進めるということです。実際に、子育て世代の青葉区への流入状況は数値的に分かるでしょうか。</p>
岩田区政推進課長	<p>子育て世代での流入については、まだこちらでデータを整理しきれてはいませんが、区内に他都市から転入される方のデータは取得しています。そうした、特に青葉区に転入される可能性が高いエリアに、できるだけ刺さるように広報を打っていきたくないと検討しているところです。</p>
田中議員	<p>そうすると、市外へ向けた発信において、主にターゲットとしている地域はありますか。</p>
岩田区政推進課長	<p>流入を考えると、例えば東京都の世田谷区など、転入数が多い状況があります。</p>
田中議員	<p>今、都心の地価が上がってマンション価格が高騰し、子どもが増えると、より広い住まい・よりよい住環境を求めて青葉区にいらっしゃる方が多いと思います。働き盛りの世代では、共働きの方が多いいことを踏まえると、青葉区には戸建てやマンション、駅から少し離れた団地もあるので、エリアごとの魅力や利便性などを合わせて発信した方がよいのではないかと思います。今、何か考えていることはありますか。</p>
岩田区政推進課長	<p>現時点では、エリアごとや、どこにどういう媒体を使うかといった点について、ある程度絞込んだ方が見る方に伝わりやすいのではないかと考えています。また、媒体の金額的な面もありますので、市が持っているホームページとどう連携させるか考えているところです。</p>
田中議員	<p>進めながらになると思いますが、今はリモートワークも進んでいるので、例えば駅から遠い場所で土地を買って家を建てたいという方と、一方で通勤したいという方など、さまざまなニーズがあると思います。いろいろ調査しながら、対応をお願いしたいです。地域資源調査の17ページですが、今回は、「子どもが放課後の時間を過ごす場所が欲しい」という声を受けて詳細なニーズ調査を行うとのこと。このテーマを選んだ理由について伺います。</p>
岩田区政推進課長	<p>前回、この会議等でも「子どもの放課後の時間の過ごし方」について多くのご意見をいただいていた。そういった点も踏まえまして、令和八年度は特にこのテーマで実施することとしたものです。</p>
田中議員	<p>夏休み期間中に調査ということですが、例えば今は学校でロイロノートなどのタブレットが使われています。そうしたものを活用するのか、お子さんの声と保護者の声の両方を聞くのか、アンケート調査の実施方</p>

	<p>法について伺いたいです。</p>
岩田区政推進課長	<p>どちらかというと、ロイノートというよりも、実地である程度使っていただける場を設け、実際に来てもらった子どもたちの意見を集めるという形を今イメージしているところです。</p>
田中議員	<p>子どもの声を聞くことは重要ですが、放課後の過ごし方については夜遅くなるなど心配が多いところですので、保護者の声も聞いてみるのがよいのではないかと思います。合わせてお願いしたいと思います。</p> <p>前回は質問させていただきましたが、街路樹についてです。今年の冬も、環状4号線の通り沿いで、イチョウ並木の前の店舗の方や周辺の店舗の方々から、「落葉が非常に多く、毎朝、側溝を掃除していて、ごみ袋が6袋分くらいになる。さらに銀杏を踏んだお客さんが店内に入ると悪臭がして困っている」という声をいただきました。みどり環境局にも街路樹の樹種変更が可能かどうか伺いましたが、「青葉区の方が答えられる」との返事をいただきましたので、見解等を教えていただきたいと思ひます。</p>
石島土木事務所副所長	<p>街路樹についてですが、路線ごとに樹種を決めており、一部だけ樹種を変更するのは難しい状況にあります。全体計画の中で見直す場合には変更もあり得ますが、現状では難しいところです。維持管理については、定期的に強剪定を行い、落ち葉や銀杏が落ちにくくなるよう対応しています。また、駅周辺では秋口に落ち葉拾いの委託も行っています。少しでも皆さんへの影響が少なくなるよう対応しているところです。</p>
田中議員	<p>落ち葉拾いの委託などの対応が、沿線の方には伝わっていないようです。例えば、公園愛護会のように自分たちで掃除をして、ごみ袋も自費で購入して処理している方もいて、労力や費用の負担が大きい状況です。ハマロード・サポーターさんとは別の店舗の方たちにも、こういった取組をしていることが伝われば、意見もいくらか和らぐのではないかと思います。</p>
石島土木事務所副所長	<p>具体的には10月から1月にかけて、駅前や青葉台の商店街などで落ち葉拾いを実施していましたが、詳細な周知が十分ではないところもありました。今後は、実施時期や内容について、機会を捉えて周知していきたいと考えています。</p>
田中議員	<p>提案業務のパークアンドライド会場についてです。脱炭素・GREEN×EXPO推進局に聞いたところ、青葉区内でのパークアンドライド会場の確保が難しい状況とのことですが、この点についてはいかがでしょうか。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>パークアンドライドについては、以前の交通計画の中で候補地として挙がっていた経緯があります。ただ、あくまで候補の一つで、現時点では確定しておらず、どこまでできるのか分からない状況です。</p>

	<p>田中議員                   もしパークアンドライド会場が実現しなくても、どこか区内にハブとなる場所を作れば、休憩スペースに大型モニターを設置して、来場者にGREEN×EXPO 2027の情報とともに区の魅力である緑などを発信できます。区内のハブとなる場所について予算等を含めて、いかがでしょうか。</p>
<p>井波区政推進 課担当課長</p>	<p>パークアンドライドが実施できない代わりに、ハブとなる会場を設置することはなかなか難しいかと思います。外から来た方へのアピールという側面もありますので。区民が利用する前提であれば、別の対応を考えていく必要があると考えています。</p>
<p>田中議員</p>	<p>会場が瀬谷であるため、近くて遠い存在にならないよう、区民の皆さんにも利用していただけるような取組をよろしくお願いします。</p>
<p>行田議員</p>	<p>7ページと28ページですが、防犯の関係で確認させていただきます。「スマート防犯シティ横浜」では、防犯カメラ・センサー、通信機能を持った次世代型防犯灯、GISマップを活用した効率的な防犯灯の配置といった内容が、今回の目玉かと考えています。これらの事業について、区として展開する際にどのように進めていくのか、またモデル事業として実施していくこともあると思いますが、今後どのような取り組んでいくのか。</p>
<p>松本地域振興 課長</p>	<p>防犯に関する取組については、市民局とも共有しています。今後、スマート防犯シティのプッシュ型防犯灯の設置など、区が担う役割は非常に大きくなっていくと考えています。モデル実施区についてはまだ決定していませんが、プッシュ型防犯灯の設置などについて、できる支援を実施していきたいと考えています。</p>
<p>行田議員</p>	<p>要望としてお伝えしますが、これを進めるにあたっては、やはり自治会・町内会の皆さんの合意形成がとても重要になると思います。しっかり周知をして、「これがこういうふうには地域のためになるのだ」ということをよく説明していただきたいと思います。</p> <p>防犯の関係ですが、青葉台駅北口の再開発の件です。店舗がなくなってしまって、「暗いね」とか「賑わいがいいね」という話が出ていましたが、現在の検討状況を伺います。</p>
<p>井波区政推進 課担当課長</p>	<p>現在、東急、UR、都市整備局の三者で検討を進めていて、地域にも入って話をしています。その中でも、プラーザビルの店舗が閉まったことによる賑わいやサービス、利便性が失われたことが話題に挙がっています。防犯面も踏まえて、今日ご意見いただいた内容も協議の中で取り上げていきたいと考えています。</p>
<p>行田議員</p>	<p>これまでの議論では、「賑わいがなくなった」といった話を中心でした。しかし、今回の予算でも「暗がりの解消」という言葉が非常に大きく取り上げられていて、これはとても重要なことだと思っています。安</p>

	<p>全はすべてに優先するという観点から前に進めていただきたいと思います。</p>
中島区長	<p>安全の問題は区民の皆さまにとって非常に強い関心事だと思っています。しっかりと現地を確認しながら、少しでも通行される方が安心して歩ける街並みにしていけるよう、検討を進めていきたいと考えています。</p>
行田議員	<p>プレパパを含めた「お父さんの子育て支援」についてです。私も土曜日などに現場へ行った時に、「お父さん向けのメニューが少ない」「応募するとすぐいっぱいになって参加できない」という声を聞きました。来年度は何か工夫されるのでしょうか。</p>
藤本こども家庭支援課長	<p>お父さんが参加しやすいように、来年度は再配当で新たに事業が創設されます。父親支援を目的とした日曜開所について、青葉区でもまずは2回ほど開催する予定としています。</p>
行田議員	<p>お父さんが参加できる機会は、ぜひ増やしていただきたいと思います。申し込んでもすぐ満席で入れなくて困ったという声をよく聞いていますので、どうか頑張ってください。</p>
おさかべ議員	<p>3ページのデジタルプラットフォームの意見で、「駅近に屋内施設が欲しい」という声が来ているとのことですが、私はこの会議の場でも屋内施設や水遊び場について要望しています。今後どのように応えていくのでしょうか。以前、区づくり推進会議で「都筑区を含めた屋内施設のマップを作る」というお話があったと思いますが、その進行状況・対応状況を教えてください。</p>
岩田区政推進課長	<p>「都筑区を含めた屋内施設のマップを作る」という話は、なかなか難しいと思います。区民マップの紙媒体の配布数は限られてきているところです。現状、屋内施設を含めたマップを新たに作成する予定はありません。紙の配布も資源の観点から制限している状況ですので、現段階では作成の予定はない状況です。</p>
おさかべ議員	<p>子ども向けの水遊び場や屋内の遊び場など、遊び場情報はこれまでも発信されてきたとは思いますが、やはり青葉区独自の情報、例えば水遊び場、「鷺沼のカッパークなどが近い」といった情報も含めて、青葉区に住む子育て世帯ならではの視点で情報発信を考えてほしいと思います。</p> <p>重ねて、ぜひマップの作成をお願いします。</p> <p>続けて、プレイパークについてです。公園とは違い、焚き火・水遊びがプレイパークの特徴だと思っています。市内27カ所すべてのプレイパークで水遊びを実施しているとのこと、青葉区の2カ所（しらとり台公園・あざみ野西公園）でも水遊びが行われていると、今回初めて知りました。私の子どもが小さい頃には、こうした情報は全く届いていませ</p>

	<p>んでした。現在は情報発信もされているのでしょうか。</p>
佐藤こども家庭支援課担当課長	<p>プレイパークについては、市ではプレイパーク支援事業の一環で支援員（プレイリーダー）を派遣しています。青葉区では、こども家庭支援課の窓口チラシを配布して周知しているほか、ホームページでも案内を掲載しています。</p>
おさかべ議員	<p>青葉区では数少ない水遊び場ですので、区からも積極的にプッシュ型で情報発信していただければと思います。たまプラーザ駅のフードコートところに噴水があるのをご存じでしょうか。あれが利用できればよいと思うのですが、東急さんにお話をさせていただくことはできませんか。</p>
中島区長	<p>まずプレイパークの件ですが、例えばあざみ野西ではブルーシートを使ってウォータースライダーを行うなど、さまざまな取組が行われています。そうした情報により敏感になり、皆さまへお伝えする方法を今後も考えていきたいと思っています。また、たまプラーザの噴水については、東急さんの管理なので、私どもとしては申し上げにくい面があります。安全管理上、子どもは10～15cmの水深でも溺れる危険がありますので、東急さんが判断すべき部分になりますが、ご要望があることはお伝えしていきたいと思っています。</p>
おさかべ議員	<p>17ページの地域資源調査ですが、「夏休み期間に調査をする」とのことは、夏休みの過ごし方についても併せて質問していただけるのでしょうか。</p>
岩田区政推進課長	<p>現在は、調査のスキームを調整中です。来ていただいたお子さんたちに何を質問するのかということは、これから詰めていく予定です。</p>
おさかべ議員	<p>ぜひ夏休みの過ごし方も併せてお願いします。以前、「美しが丘の夏休み子ども講座」についてお伝えしましたが、他の地区センターへの共有状況や反応はいかがでしょうか。</p>
松本地域振興課長	<p>他の地区センターでも、それぞれ地域の特性を生かした講座を実施しています。館長会等で改めて、子ども向け講座に力を入れてほしいと伝え、おおむねご理解いただいています。また、他の地区での取組が分かりやすく伝わるよう、周知にも努めていきたいと思っています。</p>
おさかべ議員	<p>調査を行えばニーズが掘り起こされ、「ぜひやってほしい」という声も上がると思います。調査するだけで終わらず、しっかり応えられる体制を整えてください。よろしくをお願いします。</p>
伊藤議員	<p>6ページの防災関係ですが、(1)のアンダーラインが引かれている「拠点表示板の更新」というのは、拠点に配備されている物資の内容を示す表示板のことですか。</p>
宮崎総務課長	<p>この拠点表示板というのは、駅前や地域防災拠点である小学校の近くに設置しているもので、「ここが拠点です」という情報や、近隣地図の</p>

	<p>中での位置づけを示すものです。民間企業様との共同で設置し、継続してきましたが、盤面が古くなってきているものもあるため、8年度予算で盤面の更新費用を計上しています。</p>
伊藤議員	<p>次に、(3)の防災啓発事業についてです。小学生向けの事業とのことですが、地域の方を講師にする場合、どのような基準で講師を選ぶのですか。</p>
宮崎総務課長	<p>地域防災拠点の運営委員会が中心となり、授業の中で生徒にお話しいただき、地震時の基本的な知識に加え、地域の活動も紹介し、保護者と一緒に地域訓練へ参加するきっかけになることを目指しています。</p>
伊藤議員	<p>これは全体として、何校ぐらいを想定しているのですか。</p>
宮崎総務課長	<p>まず校長会でご案内します。多くの学校から問い合わせをいただきたいと思いますが、授業の都合もあるため、これから調整していきます。</p>
伊藤議員	<p>次に、8ページのeスポーツ関係についてです。導入後、少し時間が経ったと思いますが、利用状況はどのようなようですか。</p>
岸田高齢・障害支援課長	<p>eスポーツを活動に取り入れている団体は徐々に増えており、試行も含めて現在8団体です。また、区の青葉区老人クラブ連合会でも機器を購入され、4月から地区の老人クラブへ貸し出す予定です。具体的な団体数は固定ではありませんが、着実に増加しています。</p>
伊藤議員	<p>これも重要な取組だと思いますので、引き続きお願いします。</p> <p>続いて、24ページの赤ちゃん休憩室についてです。あざみ野に授乳室があるのは知っていましたが、今回はそれを拡大するということですか。それとも以前から休憩スペースも含まれていたのでしょうか。</p>
藤本子ども家庭支援課長	<p>これは20年近く前から実施しており、休憩できるスペースを提供していただき、休憩・授乳とも可能な場所として運営しています。整理整頓はボランティアの方に委託しています。</p>
伊藤議員	<p>ボランティアの方は以前と同じ団体の方が担当しているのですか。</p>
藤本子ども家庭支援課長	<p>そうです。</p>
伊藤議員	<p>「安心して出産できる環境」についてお聞きします。総合病院で、産科医が足りずにお産の受け入れを止めているところがあると伺い驚きました。産科医不足の場合だけでなく、少子化で需要が減り停止している地域もあるとのことですが、青葉区の状況はどうですか。</p>
青木センター長	<p>私の認識では、青葉区で医師不足は感じていません。医師会や病院の先生方からもそのような話はありませんし、産科医不足で受け入れ停止という情報も聞いていません。</p>
藤本子ども家庭支援課長	<p>昨年の出生連絡票のデータですが、青葉区は区内出産よりも「里帰り出産」や「市外での出産」が多い傾向があります。現時点で産科医不足</p>

	<p>の話は聞いていません。</p> <p>伊藤議員           では、病院が余っているわけでも不足しているわけでもなく、バランスが取れている状態ということですね。</p> <p>青木センター長    青葉区は現在のところバランスが取れていると感じています。</p> <p>山下議員           eスポーツについてですが、青葉区が一番進んでいるというのは、県も言っているところです。一つ気になるのは、「eスポーツという言葉は使わず、ビデオゲームと表記してください」という話を聞きます。任天堂がeスポーツという表現を禁止していると聞いたのですが、実際どうなのでしょう。</p> <p>岸田高齢・障害支援課長   企業ごとにeスポーツに対するスタンスが異なります。任天堂については「eスポーツという言葉は使わない」というスタンスで、基本的には家庭用ゲーム機として普及させることを重視していると聞いています。大規模な大会を前提としたeスポーツという概念とは距離を置いているため、eスポーツという用語は使用しない方針のようです。</p> <p>山下議員           施設では「Nintendo Switchを使うならeスポーツという言葉は使わないで」と言われたと聞いたのですが、本当にそういうことなのですか。</p> <p>岸田高齢・障害支援課長   はい。例えば、子どもが動画を作成する際、任天堂に確認したところ、「端末機器は映さないでほしい」「ソフトはメーカーが許可すればよいが、Nintendo Switchをスポーツと関連付けて紹介する動画は不可」との回答をいただいています。</p> <p>山下議員           eスポーツは、そろそろ「次のステージ」を考えてもよいと思っています。福祉分野から入ったのでまずは高齢者向けに広がりましたが、行政でもeスポーツという言葉が普通に使えるようになりました。もともとeスポーツはコミュニケーション手段として有効です。多世代交流もできるのが魅力だと思います。今、高齢者同士の大会だけでなく、シニア大会などを含め幅広い交流がありますが、こうした多世代参加はどのようにお考えですか。</p> <p>岸田高齢・障害支援課長   具体的な形はまだ固まっていますが、高齢者の方からは「孫に教えてもらって一緒に遊んでいる」という声が多く、eスポーツが世代を超えた交流のきっかけになっています。今後は、高齢者の社会参加ツールとしてだけでなく、多世代交流の視点でも展開する価値が十分あると考えています。</p> <p>山下議員           現在は福祉分野で8団体が行っているとのことですが、eスポーツは次のステージに向けて、大会のような取組も視野に入れるべきではないでしょうか。</p> <p>中島区長           今回の予算に計上している対抗戦は、まずシニアの対抗戦を想定して準備しています。しかし、実際の会場を見ると、高齢者だけでなく若い</p>
--	--

	<p>方や障害のある方も一緒に楽しんでいて、すでに多様な参加が生まれています。今使っているソフトは誰でも扱いやすく、参加しやすいものですので、今後さらに広がれば、年齢や障害の有無に関係なく楽しめる交流の場になっていくと考えています。</p> <p>山下議員  今回の総選挙で、自民党が掲げた17の重点政策の中に「コンテンツ産業振興」があります。6兆円規模まで膨らんでいる市場で、実は6割がゲーム産業です。本来、産業の少ない地域にとって、こうした分野で経済的な潤いが出る可能性もあります。eスポーツという言葉を行政が普通に使えるようになった今、ぜひ視野に入れていただきたいと思います。</p> <p> 続けて、「GREEN×EXPO 2027（2027年国際園芸博覧会）」の関係です。メインは瀬谷区になると思いますが、青葉区も「ゲート都市」としての政策や関連事業の検討は進んでいますか。</p> <p>岩田区政推進課長  1年前イベントを3月に開催する予定です。1月の広報でもお知らせしましたが、区内3つの高校からアイデアをいただいております、SNS発信、動画作成、スタンプラリー企画などを準備しています。若い世代に伝える取組を進めていきます。</p> <p>山下議員  今ボランティアの募集も始まってきているので、いろいろな人を巻き込んでいくことは大事だと思います。万博という大きなイベントである以上、「見せ方」が非常に重要です。青葉区は公園が非常に多く、「ゲートとなる街」として位置づけられているので、これらの公園をより魅力的に見せるためにハード面を整備していくことも一つの方向だと思います。また、脱炭素がテーマであるなら、桐蔭学園のペロプスカイト（太陽電池）の話もよく出てきます。青葉区が「GREEN×EXPO 2027のゲート」として位置づけられるのであれば、区としてももう少し積極的に動く必要があると思います。博覧会協会（公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会）にも区から強めにプッシュしていかないと、間に合わないのではないかと危機感を持っています。</p> <p>中島区長  私どもも、博覧会協会から十分な情報が出てこないという点については、歯がゆい思いをしています。そうした中でも、少しでも得られている情報を基に、区として何が使えるのかを検討しています。博覧会に関しては権利関係が厳格に決められており、使えるもの、使えないものが明確に区分されています。どのようにすれば権利に抵触せずに実施できるのかを慎重に考えながら進めているところです。残り1年という限られた期間ですので、積極的にPRを行い、この取組が地域に根付くよう、しっかりと進めていきたいと考えています。</p> <p>山下議員  この街は緑が多いので、青葉区という地域が、ある種「光る」くらいの存在になってほしいと思っています。そのための提案を、ぜひこちら</p>
--	---

	<p>からも積極的に出していきたいと考えています。</p> <p>最後に、ふるさと納税についてです。青葉区独自の商品をつくることで、そのお金が青葉区に戻ってくるという仕組みができます。良いアイデアが、区政推進課長のところにたくさん寄せられているのではないかと思いますので、実際はいかがでしょうか。</p>
岩田区政推進課長	現時点では特に寄せられている状況ではありません。
山下議員	これからGREEN×EXPO 2027に関連する取組がさまざま出てくる中で、青葉区には緑が豊かで農業も盛んで、コンテンツ性のある資源が多くあります。ホテルや大規模な商業施設がなくても、地産物など、魅力あるものがたくさんあります。それなら、今まで他の地域に流れていた価値を、こちら側でしっかり取り込み、青葉区の財源として確保していくことができるのではないかと思います。そして、青葉区の方々は「税金を負担しているのに、区内には施設が少ない」とよく言われます。だからこそ、このふるさと納税の制度ができた今、せめて青葉区が「ふるさと納税で市内一の寄付額を集めた」と言えるくらいの成果を出していきたい。
中島区長	確かに、青葉区内を探せば、掘り起こせば、そういった魅力ある商品はまだまだあるのだと、今のお話を伺って改めて気づいたところです。ぜひ、そのような返礼品として価値のあるものを、私たちも積極的に掘り起こし、見つけられるように、日頃から感度を高めていくことを意識しながら、検討を進めていきたいと考えています。
横山議員	施設管理費ですが、2600万円の増額になっている理由は何でしょうか。
宮崎総務課長	物価高騰の影響によるものです。指定管理者制度を導入している施設では物価スライド制などもあり、その影響で増額となっています。
横山議員	補修等、もっと手を入れたいところ、本来なら改善したい箇所はあると思うのですが、現状は予算の範囲内で対応しているという理解でよいですか。
宮崎総務課長	区庁舎も築30年が経過し、急な故障が出ることもあります。例えば電話設備でも混線が多く、区づくりの予算を使って工事を進めているところです。やりたいことは多くありますが、一度にはできないため、優先順位をつけながら数年かけて進めている状況です。
横山議員	そこにこそ、ふるさと納税が活きる場所です。企業版も個人版もありますし、政策局が「各区が自主財源を確保してよい」として基金を作りました。今は、区が独自の予算を獲得してやりたいことを実現できる時代です。
	返礼品もそうですが、「待っているだけ」では絶対にだめです。まさ

	<p>に職員の知恵の出し合いが必要です。今こそ青葉区が、横浜中のふるさと納税を「かき集めるくらいの勢い」で、職員一人ひとりがアンテナを張り、「あれはどうだ」「これはどうだ」とアイデアを出し合うことが大切です。私もふるさと納税をずっと調べていますが、つくづく思うのは職員の「やる気」です。事業者との協力ももちろん大切ですが、青葉区のことを一番よく知っているのは、地元を歩いている区役所の職員です。これは、職員の知恵の総力戦だと私は思っています。区長の決意を伺いたいと思います。</p> <p>中島区長 基金条例が昨年12月に成立しましたので、この基金を積極的に活用していきたいと考えています。基金の活用方法としては、ふるさと納税型、クラウドファンディング型（税控除なし）、遺贈寄付などがあります。クラウドファンディングであれば、寄付していただく方に「共感」していただける事業であることが重要です。遺贈については、寄付者の思いをしっかりと受け止めて活用することが求められます。いずれにしても、まず私たち職員が「何ができるか」を真剣に考えることが必要です。この基金をきっかけに、私たち職員自身が意識を変えることが大切だと思っています。しっかり取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>横山議員 人の心を動かすには、ストーリーが必要です。遺贈であれば、「生前、この公園でよく日向ぼっこをしていたので、公園整備に役立ててほしい」といったストーリーが大切です。ぜひ、そうした視点を大切に考えていただきたいと思います。</p> <p>岸田高齢・障害支援課長 それから、8ページの「敬老祝品」ですが、内容はこういったものですか。</p> <p>横山議員 確認し、後ほどお答えします。</p> <p>なぜこの点を伺ったかという、戦没者慰霊祭がなくなってしまったことを、私は非常に残念に思っているからです。遺族会の活動が非常に難しくなっている中で、これまでは遺族会を通じて戦没者の方々に穀物をお供えしていました。それがなくなってしまったことは本当に残念です。ただ、慰霊祭を遺族会中心で続けようとしていたため、活動規模が小さくなり、結果として開催が難しくなったという事情もあります。しかし、横浜市には平和条例があり、先の大戦で亡くなられた方々を供養することは非常に大切なことであり、平和を願う市民の思いにもつながるものです。だからこそ、遺族会だけでなく青葉区民自身が、青葉区で亡くなられた戦没者の御霊を慰める場をつくってもよいのではないかと考えています。青葉区内で、平和を願う人々の思いが形となるような集まりができればよいと考えていますが、今後の平和事業についてどのようにお考えですか。</p>
--	--

中島区長	遺族会の皆さんは、ご親族を失ったという深い思いがありますので、追悼や平和への願いが非常に強いのは当然です。ただ、平和を願う気持ちは、遺族であるかどうかに関わらず誰にとっても大切なものです。今のように国際情勢が不安定な状況だからこそ、平和について意識することは重要だと考えています。現時点で「この事業を行う」といった具体案はありませんが、遺族会に限らず区民全体で平和の思いを共有し深めていくことは重要であると認識しています。
横山議員	次に、17ページの「子どもの放課後の居場所」の件です。子どもたちの放課後の過ごし方ですが、私としては「学校開放」がすぐ思い浮かびます。しかし現状は学校開放がされておらず、授業が終わるとすぐ帰宅しなければならない状態です。これは将来的には学校開放につながる取組だと理解してよいのでしょうか。
岩田区政推進課長	今回（17ページ記載の資源調査）は、学校開放を直接の目的としたものではなく、放課後の過ごし方全体のニーズ調査になります。調査の中でどのようなニーズが出てきて、それがどう施策につながるのか次第で、学校開放との関係性も見えてくると思います。
横山議員	子どもたちの立場からすれば、学校に残って遊びたいというのは当たり前前の感覚です。長期休みでも、慣れた学校で遊びたいというのは自然ですし、市街化区域には公園がありますが、市街化調整区域には公園がありません。そうすると、必然的に学校が一番の遊び場になります。今後は学校開放を前提にした考え方も含めて検討してほしいと思います。 それと、マイナンバーカードの更新ですが、今の混雑状況はどうですか。
松田戸籍課担当係長	年末は電子証明書の更新が集中し、大変混雑していましたが、現在は少し落ち着いてきています。
横山議員	私も更新しましたが、「2か月先の予約を入れてください」と言われ、予約したところ当日行ってみるととても空いていました。おそらく作業に余裕を持った予約枠を設定しているのだと思います。場合によっては待ついただくこともあります。当日受付もできる旨の案内はできませんか。
松田戸籍課担当係長	原則は予約制ですが、お急ぎの場合、当日の受付にも、可能な範囲で対応しています。ただ、これを大々的に案内してしまうと、窓口が対応しきれない可能性があるため、現在は原則予約制という運用で周知しています。
横山議員	区民の方から「更新手続きが分かりづらい」との声もありましたので、分かりやすい案内を進めていただきたいと思います。 最後に、谷本公園について伺います。
井波区政推進	谷本公園については、今年1月に約350㎡・1筆区画の購入が完了し

	<p>課担当課長      ています。残りは8筆です。残りについては相続登記が済んでいない土地もあり、相続人を追いながら一件ずつ整理している状況です。引き続き、整理が進み次第、報告できればと思っています。</p> <p>横山議員          相続人は把握できているのですか。</p> <p>井波区政推進      相続が未完了のケースも多く、相続人を調べる作業が必要になります。把握済みのケースもありますが、そうでないケースもあり、一件ずつ対応しているところです。</p> <p>課担当課長</p> <p>横山議員          いずれにしても買い取る必要のある土地なので、相続人の特定は早めに進めてください。後になると非常に時間がかかります。よろしく願います。</p> <p>岸田高齢・障      先ほどのご質問（敬老祝品）への補足です。横浜市としては、100歳 害支援課長      以上の方にお茶やゼリーをお送りしています。区づくり予算としては、青葉区最高齢の男女に「祝い状」を送るための筆耕費用のみが計上されています。実際には、青葉区長と社会福祉協議会の会長がお伺いし、祝い状をお渡ししています。</p> <p>横山議員          分かりました。</p>
--	---